

テーマ：消費者物価（全国3月、東京都区部4月） 発表日：2007年4月27日（金）
 ～ 当面、小幅のマイナスか ～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

（単位：%）

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信料	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
06	1月	▲0.1	▲0.1	▲0.7	11.0	▲7.3	▲0.3	▲0.4	▲0.6	9.6	▲7.3
	2月	▲0.1	0.0	▲0.5	13.5	▲7.3	▲0.3	▲0.2	▲0.5	11.7	▲7.3
	3月	▲0.2	0.1	▲0.5	14.0	▲7.3	▲0.4	▲0.1	▲0.3	11.8	▲7.3
	4月	▲0.1	▲0.1	▲0.6	9.3	▲7.3	▲0.1	▲0.1	▲0.3	6.9	▲7.3
	5月	0.1	0.0	▲0.5	11.3	▲6.6	0.0	▲0.1	▲0.2	9.7	▲6.6
	6月	0.5	0.2	▲0.4	12.3	▲6.6	0.3	0.0	▲0.3	11.3	▲6.6
	7月	0.3	0.2	▲0.3	11.3	▲6.6	0.2	0.0	▲0.1	10.9	▲6.6
	8月	0.9	0.3	▲0.4	13.2	▲6.6	0.8	0.0	▲0.2	13.3	▲6.6
	9月	0.6	0.2	▲0.5	11.5	▲6.6	0.5	0.0	▲0.3	11.5	▲6.6
	10月	0.4	0.1	▲0.4	9.0	▲6.6	0.4	0.1	▲0.1	8.2	▲6.6
	11月	0.3	0.2	▲0.2	5.9	▲0.3	0.2	0.2	0.0	4.7	▲0.3
	12月	0.3	0.1	▲0.3	5.3	▲0.3	0.3	0.2	0.0	4.1	▲0.3
07	1月	0.0	0.0	▲0.2	3.4	▲0.2	0.1	0.2	0.1	2.6	▲0.2
	2月	▲0.2	▲0.1	▲0.3	▲0.6	▲2.3	0.0	0.0	▲0.1	▲0.5	▲2.3
	3月	▲0.1	▲0.3	▲0.4	▲1.4	▲4.1	0.1	▲0.1	▲0.3	▲1.4	▲4.1
	4月	—	—	—	—	—	0.2	0.0	▲0.2	0.0	▲4.1

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

○ マイナス幅が拡大

3月の全国消費者物価指数は前年比▲0.3%（2月同▲0.1%）と2ヵ月連続で前年比マイナスとなり、コンセンサス（同▲0.2%）をやや下回った。内訳をみると、石油製品が同▲1.4%（2月同▲0.6%）と寄与を▲0.04%pt縮小させた（CPIコアへの寄与度：2月▲0.02%pt→3月▲0.06%pt）ほか、2月に続き、一部通信会社の更なる新料金プランの影響で移動電話通信料が前年比▲4.1%（2月同▲2.3%）とマイナス幅を拡大させたことも▲0.03%pt押し下げに寄与（CPIコアへの寄与度：2月▲0.05%pt→3月▲0.08%pt）している。また、特殊要因（※）除くコアに関しても、航空運賃の下落などが影響してマイナス幅が拡大している（CPIコアへの寄与度：2月▲0.09%pt→3月▲0.23%pt）。足元の消費者物価弱含みには石油製品価格下落の影響が大きいことは確かなのだが、その要因を除いてもマイナス圏にあることはかわりない。足元の物価低迷の原因を石油製品価格のみに帰することは適当ではないだろう。

※ここでは、米類、電気代・都市ガス、石油製品、保険医療サービス、固定電話通信料、移動電話通信料、たばこを特殊要因としている。

○ 4月東京都区部も期待外れの結果に

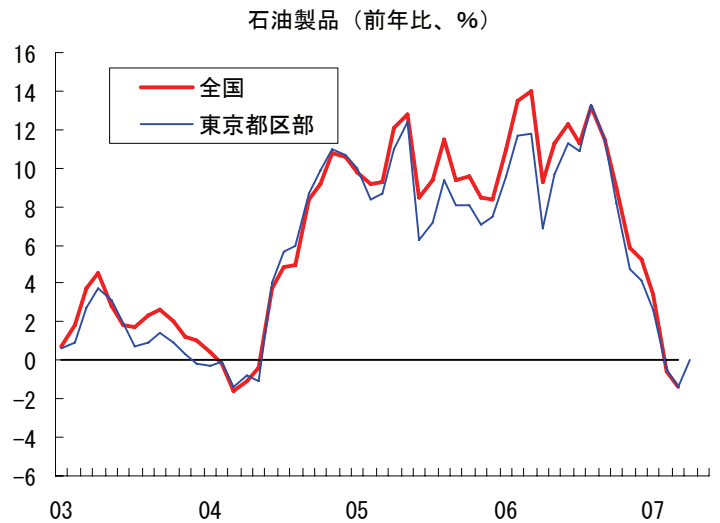
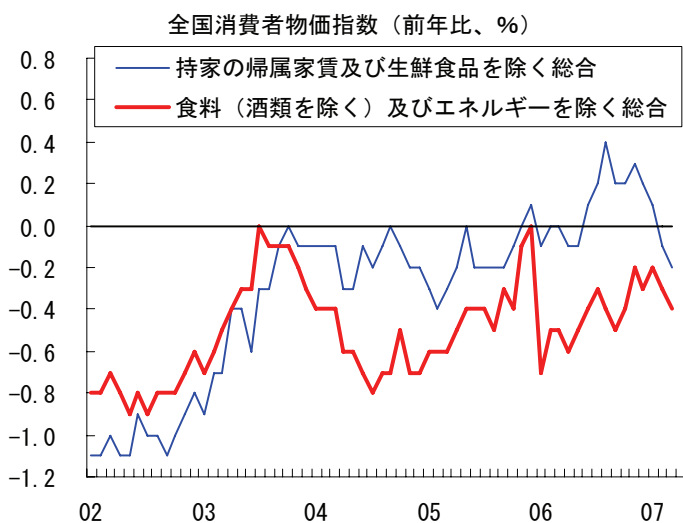
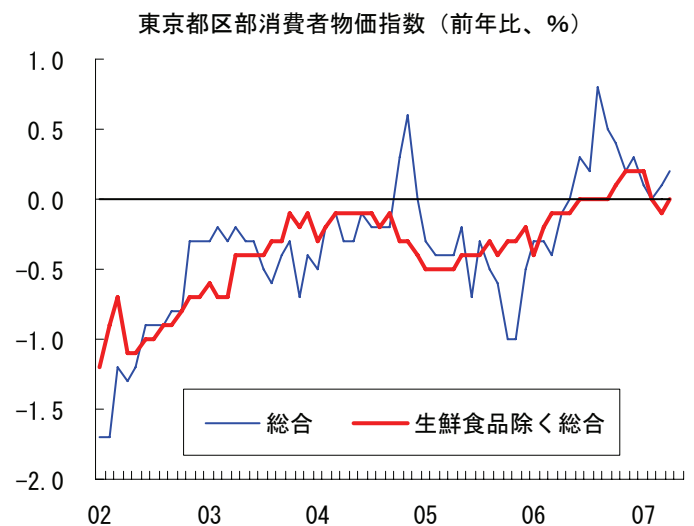
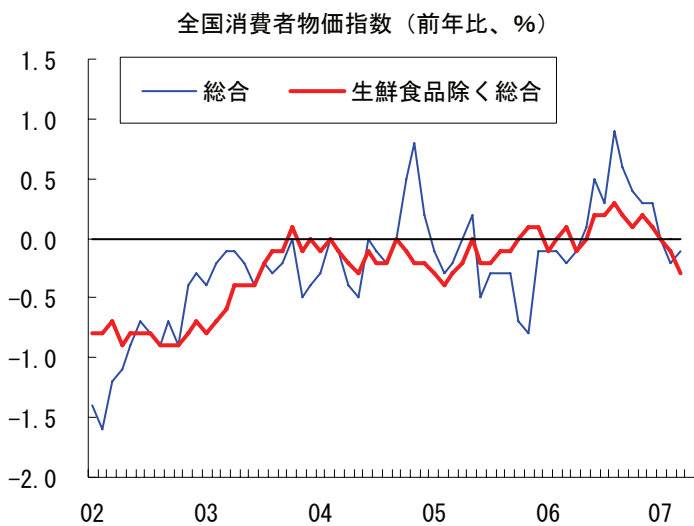
4月の東京都区部消費者物価指数は前年比横ばい（3月同▲0.1%）と前月から+0.1%pt改善し、コンセンサス通りとなった。昨年の裏が出る形で診療代（CPIコアへの寄与度：3月0.00%pt→4月+0.04%pt）や電気代（CPIコアへの寄与度：3月▲0.01%pt→4月+0.04%pt）がプラスに寄与したほか、寄与度低下が続いてきた石油製品も前年比0.0%（3月同▲1.4%）と久しぶりに前月対比改善した。特殊要因除くコアについてもマイナス幅は若干縮小している（CPIコアへの寄与度：3月▲0.13%pt→

4月▲0.09%pt)。

元々、4月は料金改定が集中する月であることから、サービス価格を中心に改善がみられるのではという予想が多かった。4月の改善はそのことを一応裏付ける結果といえなくもないが、改善幅はC P I コアで+0.1%pt、特殊要因除くコアで+0.04%ptとかなり小さく、影響は極めて限定的だったという印象を受ける。消費者物価指数を水面上にまで押し上げるには力不足の感が否めない。

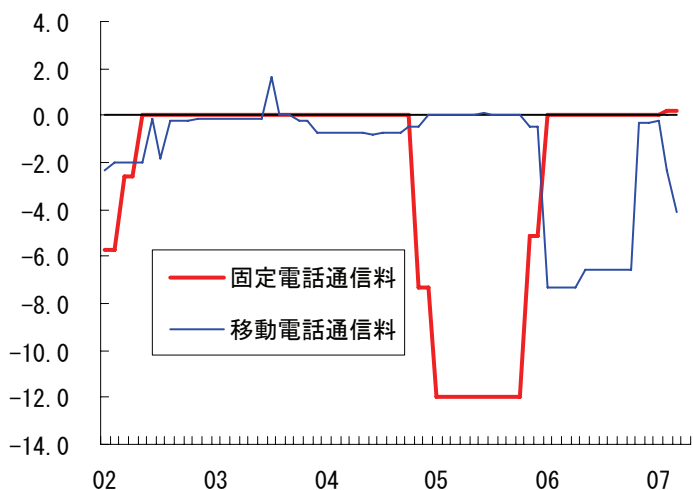
東京都区部の動向から試算すると、4月の全国消費者物価指数(コア)は、前年比▲0.1%と予想される。石油製品価格は3月と比較して+0.05%pt程度、昨年の裏が出る診療代も+0.04%pt程度プラスに寄与することなどが影響するだろう。

このように、4月に関してはマイナス幅の縮小が予想されるが、引き続きマイナスであることには変わらない。4月の料金改定でプラス転化という期待もあっただけに、むしろ期待外れといった感もある。特殊要因除くコアについては筆者の予想以上に低迷が続いており、物価の基調はかなり弱いといってよいだろう。先行きの原油価格次第の面はあるが、仮に原油価格が足元程度の水準で推移すると仮定した場合、消費者物価コアは7-9月期頃までゼロ~小幅マイナスで推移すると予想される。物価上昇までの道のりはまだまだ長そうだ。

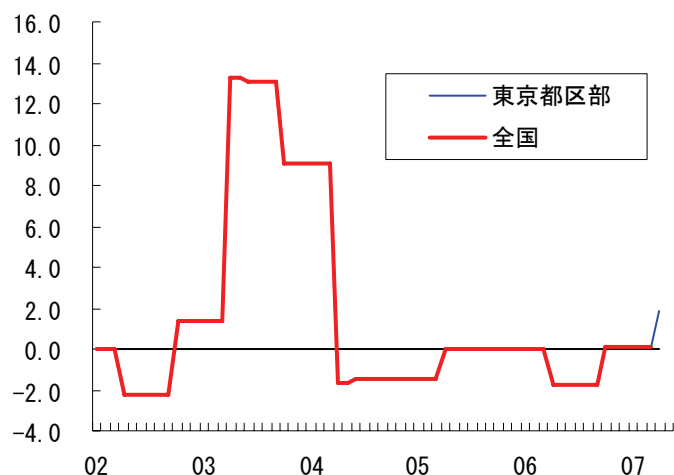


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

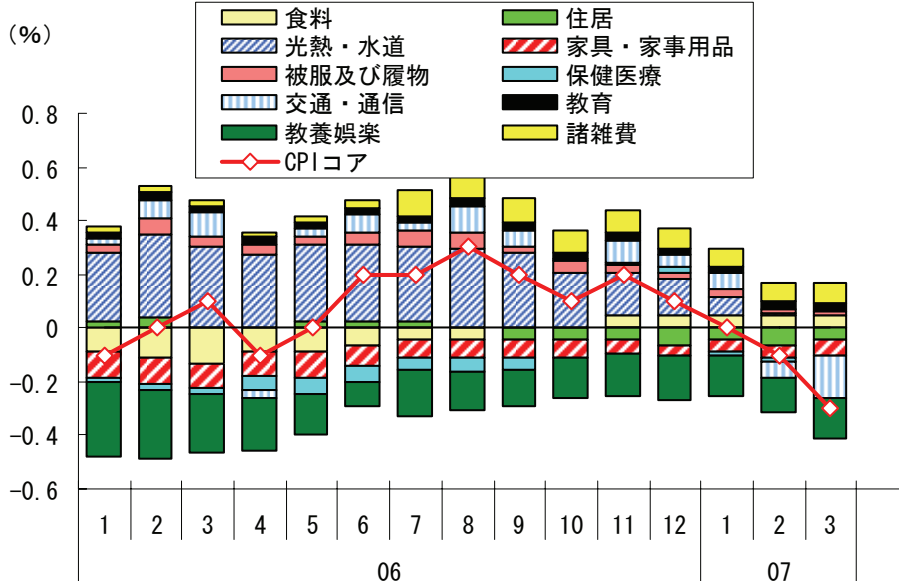
全国消費者物価指数（前年比、%）



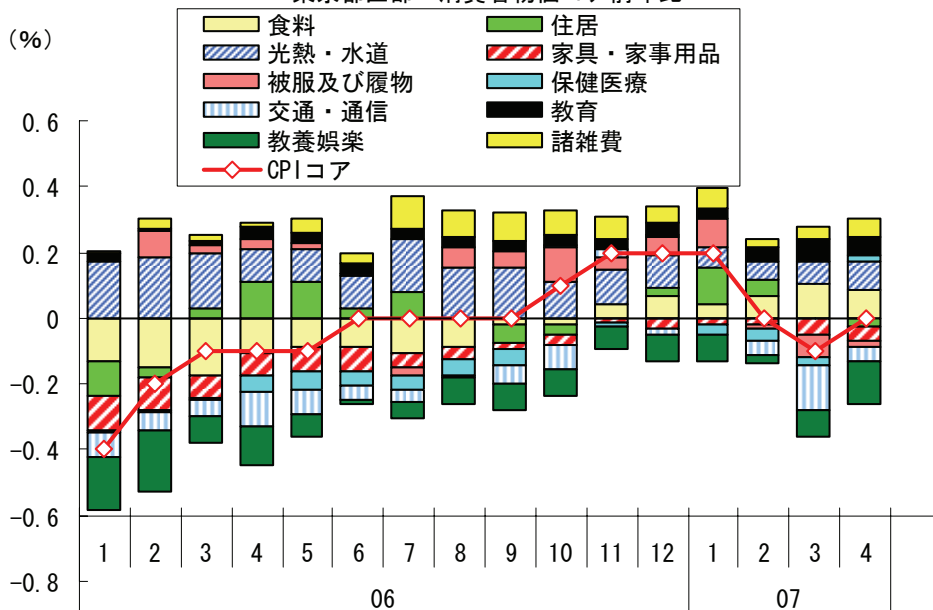
診療代（前年比、%）



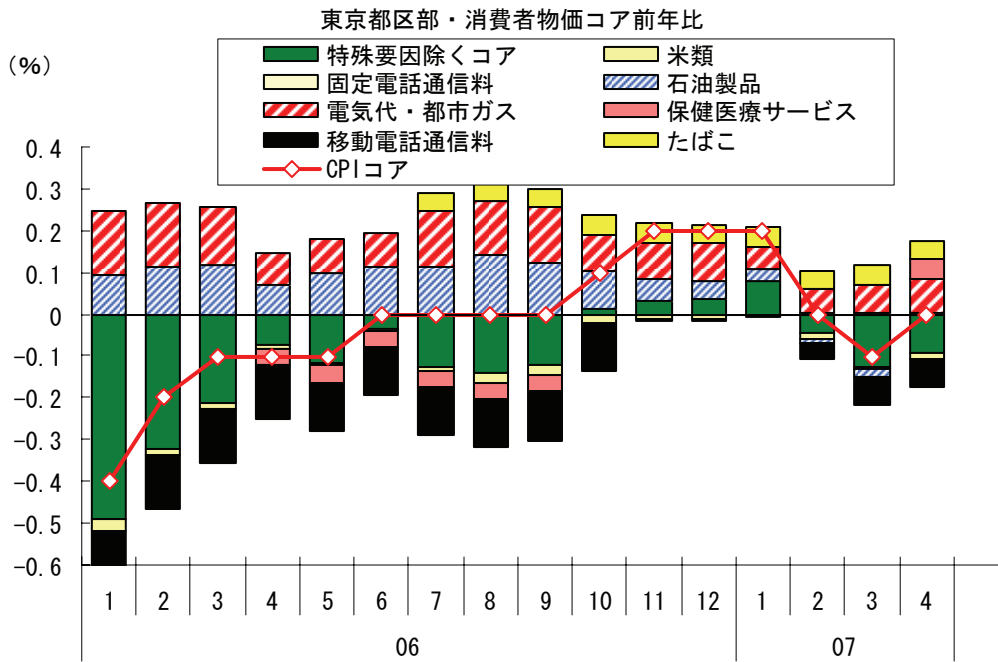
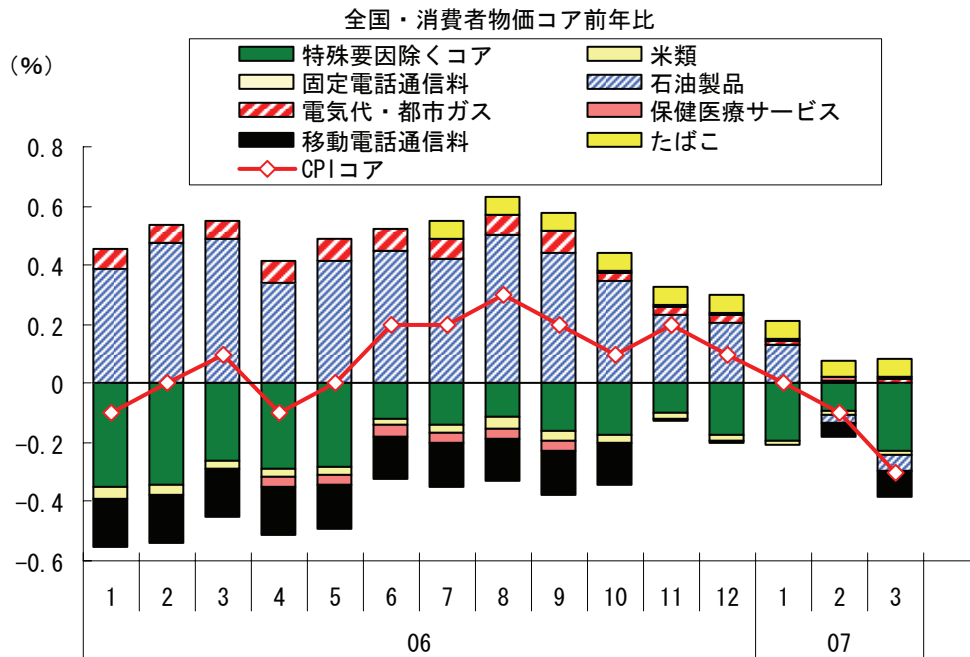
全国・消費者物価コア前年比



東京都区部・消費者物価コア前年比



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



グラフの出所はすべて総務省統計局「消費者物価指数」